

## ぶらっと山歩（さんぽ） ～兵庫と京都・県境の山/高竜寺ヶ岳へ～

文と写真：吉野会長

兵庫県の最北東にあり、京都府との県境に位置する高竜寺ヶ岳（696.7M）。久美浜町側に住む年長者の中にはこの山を「丹後富士」と呼ぶ人もいるが、その名に相応しいのは、宮津市と舞鶴市にまたがる「由良ヶ岳（640M）」の方だろう。又、舞鶴市と福井県の高浜市にまたがる「青葉山（693M）」も舞鶴市の人々は「丹後富士」と呼び、若狭湾側高浜市に住む人は「若狭富士」と呼んでいる。いずれにしても眺める位置によって姿がそれなりに美しければ「〇〇富士」とつけるのはいかにも日本人たる国民性を表しているように思う。



左/高竜寺ヶ岳（何れもHPより）右/青葉山（若狭富士）

5月の10連休がいつの間にか終わり、その1週間後の日曜日、S社が企画された登山ツアーの案内人役としてこの山に出かける機会を得た。ヒヨコの例会でこの山を初めて紹介したのは平成17年の5月である。兵庫県山岳連盟が創立50周年を記念して「ふるさと兵庫50山」のタイトルでガイド冊子を発行。それから50山踏破をめざして単独例会として行うようになり、17番目に計画して案内した山であった。



京都府側の厨ヶ畑登山口（入山口）

その時は兵庫県側の但東町高龍寺集落側から細い急尾根をほとんど真北に向かって登り、境界尾根を忠実に詰めて山頂に達したが、今回の案内は、



厨ヶ畑峠の古びた方向案内板

豊岡市但東町から京丹後市久美浜町へ通じている「たんたんトンネル」を抜けた場所、つまり、京都府側の厨ヶ畑登山口から入山。林道を詰めて峠に出、境界尾根から山頂へ至るコースとし、下りは先に述べた反対のコースを辿ることとした。

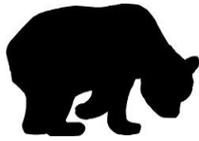


新緑とおいしい空気に大満足の参加者

貸切バスは明石を7時出発。姫路で数名を乗せ、播但道を北上。3時間余りを要して現地に着いた。同僚案内人K氏による軽い準備体操を終え出発した。何時もの事ながら最後尾に付く。参加者の歩き具合や疲労困憊者の有り無し、コースや安全の確認など、全体の把握は、より神経を使う。

林道を少し入った所で思い出したのは、ヒヨコの例会の下見に来た時の事であった。平成16年

10月20日、豊岡をはじめとしたこの地方を襲った台風23号により、ここ但東町も大きな被害を受けていた。沢はえぐられ、林道の木々は倒れ、大きな石が道を塞ぎ、とてもではないが、入山など出来る状況ではなかった！・・・そして2回目の下見は、高竜寺集落側から入山予定のものであった。確か11月末か12月始めだったように記憶している。



途中から降り始めた秋雨・・・いや、みぞれの様な冷たい雨と、ヌルヌルした急な登りに悩まされ、やっとのおもいで稜線尾根へ出た途端、夢中でドングリかシイの実を食べていた熊の後姿に遭遇！！・・・熊もびっくり、一目散に沢へ駆け下りて行ったが、こちらは足の震えが止まらず、身体は金縛りにあったような感じでしばらく身動きが出来なかった！・・・大きな真っ黒いお尻だけが鮮明に目の中に残り、山頂などどうでもよく、来た道を一目散に飛んで降りて行った！・・・

ところがである！今度は、びっくりする様な立派な角の雄鹿に遭遇！！・・・相手は妻と子供連れ！・・・威嚇の鳴き声を発し、今にもその角で突きかからんばかりの身構えに、こちらは前を向いたまま急坂を後ずさりをせねばならず、この時ほど過酷なバック歩きはその後の山行に経験したことはありませんでした！・・・。

それから後の単独下見山行中は「笛を吹き、大声や咳払いを短い間隔で行いながら獣に知らす！」ようにしている。



ブナ群生地をひたすら登る参加者

話は戻るが、道幅の広い、しかも結構手入れの入ったこの尾根は、京都府が整備しているのだろうか？・・・尉ヶ畑峠から幅広の林道を少しの距離を歩くと境界線上の尾根道へ入る。コイワカガミの残り花が道の左右で見られた。20日程早ければ、多くを見ることが出来たであろう・・・。

山頂が近づくとブナの木が目立ち始めた。「ブナ群生地」の小さな表示板があり、そこから上はブナの鮮やかな新緑と木々が発する新鮮で清々しい匂いで身も心も一気に若返る。僅か摩耶山程の高さしかない山なのに、流石は日本海側の山だな～と感心する・・・。ブナの林を抜け、最後の短い急登を詰めると山頂に飛び出した。

山頂は結構広く、ここより望める山々の山名を記したユニークな方向表示板が今も健在であった。



方向毎に山名を記した表示板

すぐ南側には数年前の深雪時に登り、往生した東里ヶ岳が。南西方向には東床ノ尾・西床ノ尾の山々。南東方面には雄大な大江山が眺められた・・・。



三角点の石柱が2本あった？・・・県境の山だから？

昼食を済ませ下山にかかる。すぐ西側に目をやると、その後にふるさと兵庫 50 山に追加された「法沢山」が見える。急勾配をしばらく下ると次のピークとの鞍部に降り立った。先に述べた熊の尻を見て飛んで逃げた場所である！・・今はそこから次のピークへ登らなくても、横を巻いて行くショートカットな道が出来ていた・・。

左へとって、ここからは真南へ一気に下る。地形図上に登山道の表示はないが、その昔、場所は定かでないものの、麓にあったと思われる高龍寺詣の人々が、山頂付近にあったと思われる奥の院まで結構沢山登っていたのだろう・・と推測される。急だが、はっきりとした登山道になっている。



但東町高龍寺集落側からの登山口

#### 【追記】

冒頭、高龍寺ヶ岳のことを「久美浜町側に住む年長者の中にはこの山を『丹後富士』と呼ぶ人もいるが・・」と記したが、一昔前、つまり現在の京丹後市になる前は「京都府熊野郡久美浜町」であったので、永く『熊野富士』と呼ばれていたという方が馴染み深いだろう・・ことを記しておく。

2019年（令和元年）5月

さて・・この原稿を書きながら、明後日から31名のヒヨコ会員をお連れする「大山隠岐国立公園・大山地域」の一角「三平山・擬宝珠山・象山」のことが頭の中でコンガラガッテしまって、ぶらっと山歩(さんぽ)ならぬ、フラッフラッと山歩・・の文章になりましたことをお詫びいたします！

